

平成27年第2回定例会一般質問

夢と希望の持てるまちづくり

2015/06/18

古河市議会議員

園部 増治

平成 27 年第 2 回定例会一般質問

13 番議員、真政会の園部増治です。議長のお許しをいただきましたので質問通告に従い一般質問を行います。

質問に入る前に、去る 4 月 26 日に行われました市議会議員選挙におきましては、市民の皆様のご支持ご支援を賜りまして 5 期目の重責を担わせていただくことになりましたことに、心から感謝を申し上げます。市民の皆様の負託に応えられますように全力で取り組んでいきたいと考えておりますのでよろしくお願いをいたします。

また、先月 29 日には、口永良部島の新岳が大噴火いたしました、1 日も早く火山活動が沈静化して、島外へ避難されている方が帰島できることを願っております。

今回の質問は「夢と希望の持てるまちづくりについて」であります。古河市は、平成 17 年 9 月 12 日に 3 市町が合併してから、今年で丸 10 年になります。私の 15 年間の議会生活の中でも大きな節目でありました。合併に際して市民に示されたのが「新市建設計画」でした。合併特例債の延長に伴い、昨年 3 月に見直しがされましたが、中身については当初計画とほぼ同じであります。

新市の将来像を「風格と希望に満ちたいきいき古河」とし、県西

地域の中心的な都市としてふさわしいまちづくり、ふれあいと共生を大切にするまちづくり、一人ひとりが主役のまちづくりをしていくことと定められています。

私は、この新市建設計画は市民に対する約束であると考えておりますので、この約束をきちんと果たしていくことが「夢と希望の持てるまちづくり」につながるものと確信をいたしております。私は、今回の選挙戦におきまして、これまでの4期15年間の議会活動を通して考えられる古河市の夢と希望の持てるまちづくりについてまとめたパンフレットをもとに、市民の皆様にご訴えてまいりましたが、少しずつではありますが、市民の皆様にご共感が得られたのではなかろうかと考えております。

市民の夢を叶えるまちづくりの第1が新市建設計画の中における先導的プロジェクトの取組みであります。

- ①JR 宇都宮線古河・栗橋間における新駅の設置
- ②筑西幹線道路の整備～筑西桜川 IC～JR 宇都宮線新駅までの整備
- ③高等教育機関の誘致
- ④文化交流拠点、みどりと産業交流拠点の整備

2. 市民が安心して暮らせるまちづくり

3. 古河市を活性化させるための産業の振興
4. 災害に強いまちづくり
5. 心身ともに健やかな教育の実践
6. 地域とともに進める美しいまちづくり であります。

また、現在政府におきましても「地方創生」と行くことが叫ばれております。これからの人口減少社会にどのように対処していくかが問われているわけではありますが、地方のアイデアを出して、国で認めていただければ優先的に予算も配算しますよ、また人的な支援もしますよということですので、古河市にとってはまさにチャンスであると考えますので、市民の夢を形にできるような取り組みをお願いしたいと思っております。市長のご所見をお伺いいたします。

2点目は古河駅東部土地区画整理事業についてであります。

古河駅東部土地区画整理事業は、旧古河市と旧総和町の接点地区に良好な市街地を形成するために、平成9年に都市計画決定を受けて進めてきた事業であります。

この地区は当時古河市と総和町で共同図書館を建てようということで基金を積み立てて進めていたこともあり、新市建設計画では、文化交流拠点として位置づけられているところであります。

古河駅東部土地区画整理事業のこれまでの経緯と進捗率について、また、本年度は、前年度予算11億3,130万円に対して6億8,310万円と約4割も予算が少なくなっています。その原因は何か。さらに、これによって完成が大幅に遅れることになると思うが見通しはどうか。また、今後の進め方についてご所見をお伺いいたしまして1回目の質問といたします。

(2回目)

それでは、自席から2回目の質問を致します。

担当部長には、地方創生の取組みや古河駅東部土地区画整理事業の経緯や今後の進め方について答弁をいただきましてありがとうございます。

私は、地域の夢を叶えていくこと、形にしていくことが政治の役割であると考えております。南古河駅は昭和58年に新駅設置期成同盟会ができてから長年の懸案となっておりますが、JRが通っているということは大きな地域の資源でもありますのでこれは大いに活用すべきであると思います。

今回の選挙戦で、けやき平を遊説していた時に30歳くらいの女性の方が家の外に飛び出してきました「南古河駅をぜひ造ってください。」と声をかけていただきました。また、茶屋新田で街頭演説をしているときにも70代くらいの男性の方から「我々よりも子どもたちや孫たちのために、南古河駅を造って下さい。」と声をかけていただきました。新駅とともに筑西幹線道路を整備することで、3市町の一体感の醸成にもなりますし、日野自動車からのアクセス道路にもなりますので交通の利便性が飛躍的に向上いたします。また、新

駅周辺に良好な市街地を作ることにより定住促進にもつながります。さらに、駅ができればショッピングモールや高等教育機関の誘致にもつながりますし、佐賀県武雄市の図書館のように民間活力を導入して会館半年で入館者が50万人を突破するような図書館を作ってもよいと思います。

このような夢のあるまちづくりが私は、若者に選ばれるまちづくりにつながるものと考えます。

そして、先動的プロジェクトの第4番目に文化交流拠点の整備が入っているわけではありますが、まさに「古河駅東部土地区画整理事業」の区域内が文化交流拠点として位置づけられております。

順調に進んでいけば今頃、この第1工区内に文化センターの形ができていたころではなかろうかと思います。

合併特例債を使って、文化ホール、図書館、共有スペース、駐車場、外構工事、用地代までを含めて市の持ち出しが約40億円でできた事業ではありますが残念であります。

現在、草ぼうぼうで草を刈るだけでも大変だなという感じが致しますし、防災、防犯上からも危険であると思います。反対する場合にはただ反対するのではなく対案を示していただいて、地権者や市民

の理解を得て早く進めていただきたいと考えます。ヒ素が出たという
ことで向堀川の下流にあるトモエ乳業さんも食品工場であります
ので大変に心配をされておりました。

区画整理事業は、保留地処分金を事業費に充てていかなければなら
ないわけではありますが、文化センターの保留地処分金がなくなって
しまいましたので、今年は事業費が大幅に減額されてしまったもの
と思われませんが、これから先の進め方についてお伺いいたしまして
2回目の質問といたします。

(3回目)

それでは、3回目の質問をさせていただきます。

市長の考える若者に選ばれるまちづくりについては、教育や子育て支援に優先的に予算を配算するということであり、20歳までの医療費の無料化をしたり、教室にクーラーを取り付けることなど全国に先駆けた取り組みをしていくことであるということによって理解をいたしました。

また、市長は、よく財政が厳しいということをおっしゃられておりますが、20歳までの医療費の無料化などの市の単費持ち出しの事業を増やしていくと余計に財政が厳しくなってしまうのではないのでしょうか。

財源が厳しいときには、市の単独事業はやらないようにすること、将来、自主財源が確保できるような事業をすること、そして、いかに少ない財源で市民のためになる事業をやっていくか。そのためには、国や県からの補助金の取り付けをすることです。

国の補助金を受けるためには、まず、きちんとした計画に入っていることが必要です。思い付き的な事業ではなかなか補助金を取り付けることはできませんので、計画性のある事業を進めていただきま

すようお願いをいたします。

最後に地方創生につきましては茨城県内でもすでに3市が手を挙げており人的な支援を受けているようであります。

高萩市、常陸大宮市、桜川市の3市であります、

【紹介】

是非、市役所の職員の声も大事にしていきたい。

と同時に昨日の渡辺松男議員さんの質問にもありましたが、議会との関与も大事にしていきたいと思います。議会と執行部は車の両輪、並列対等な関係にありますので、議会からの提案にも耳を傾けていきたいと考えます。以上意見を申し上げまして私の一般質問を終わります。